

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人 清浄会		
事業所名	グループホーム なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果確定日	平成29年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15年を迎え、「みんなで その人らしさを大切に 笑顔で寄り添う」の理念を毎朝唱和し、意識付けを行い利用者として接している。自然豊かな環境の中の散歩や、畑の収穫、花壇の花の手入れ、ホーム内の食事の準備や、配膳、片付け、掃除、洗濯物畳みなど生活リハビリを中心に役割を持ち、やりがいを見つけたり、貼り絵、色塗り、書道、カラオケ、手芸、レクリエーションなど楽しめる。毎朝の体操や、音楽クラブでは季節に合った歌や、併設のデイの方と一緒にカラオケや、民謡教室に参加したり、誕生会を合同で行い、地域の方と再会したり、合同行事の敬老会に参加し楽しんでいる。外出行事では皆さんの馴染みの場所や、季節を感じられる場所、買物や、地域行事にも参加し、社会との関わりを多く持つ環境を支援している。医療も地域と連携をとり、情報交換を密に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を具現化するために、今年の法人全体のスローガンである「チャレンジ」を運営に活かしている。入居者の誕生月には、担当職員と近くのレストランでコーヒーとケーキを楽しむ日を設けたり、時間内に会議を行うことで職員の負担を減らしている。日頃から入居者の変化や気付きを申し送りなどで共有し、適切なトイレ誘導で失禁が減少したり、皮膚湿疹が治ったり、好きな縫い物に熱中することで、排尿回数が減り落ち着いて生活を送る入居者もある。そして、恒例の隣接施設内駐車場でのどんど焼きは近隣の家々からの参加で賑わい、家族会も開催され、運営推進会議でのヒヤリハットなどの報告や対策は高く評価されている。今後も法人の多様なサービスと連携しながら、新しいチャレンジで入居者の笑顔を引き出しながら、さらなる地域に密着したサービスが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **1号館／グループホームなびき**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域、家族、職員、皆で利用者を支援する理念であり、管理者、職員は常に意識し、朝礼時毎朝唱和している	理念を具現化するために、今年の法人全体のスローガンである「チャレンジ」を運営に活かしている。季節感のある衣服等の撰択に入居者の希望を考慮し、入居者の笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶や、地域の行事などに参加したり、併設施設のカラオケや、民謡教室に参加し、地域の方との交流をしたり、地域の小学校、中学、高校生、企業の研修を受け入れたりして交流を深めている	恒例の隣接施設内駐車場でのごんごん焼きには、今年も近隣の家々から正月飾りを持参して参加があり、生姜湯を振る舞っている。小中一貫校となったことで近くの小学校はなくなったが、その他の研修の受け入れは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている認知症勉強会への参加や、講習会などの講師や応援を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、包括、警察、地域の方、他施設の所長、職員など参加し、行事の報告、事故報告や対策、取組みなど状況を説明し、意見なども頂きながらサービスに活かしている	参加者の意見で出席しやすいように定例化され、議事録を玄関に公表している。全家族に案内が出され、複数の家族が参加している。委員からは、ヒヤリハットなど少しのことでも問題と捉え、報告や対策を検討する姿勢が高く評価されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの参加や、GHみやわかでの取組み、ふるさとまつりなど市の協力を頂いている	法人内に市から委託を受けている在宅介護支援センター職員も常駐していることから、地域包括支援センターとの連携もとれ、入居者の紹介や情報交換をしている。必要時ケースワーカーなどとの連携もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に、身体拘束しない取組みを行っている。苑内、外研修に参加し、伝達講習をしたり、コンプライアンスの唱和を行い、意識付けを行い、玄関はセンサーを設置し、夜間は夕方6時から朝8時まで施錠し、他時間帯は開錠している	法人の内部研修や外部研修、伝達研修が充実し職員たちは身体拘束の具体的な行為を理解している。センサーや見守りに対応したり、車椅子対応トイレの使用が混雑する場合は、ユニット間の協力、目配りや気配りで待たせないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修に参加や、ミーティングを行ったり、朝礼時、コンプライアンスルールを唱和し、意識付けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内、外研修で学ぶ。家族会などでも説明し、必要な方は支援している	家族が遠方のため成年後見制度を活用されている入居者がいる。後見人が毎月訪れ、状況の報告をしているが、職員にも理解を深める良い機会となっている。パンフレットを整備して研修計画が企画されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、意見交換したり、玄関に意見箱を設置し、門戸を開放している。面会時などに、意見や相談などを受ける事もあり、反映している	年1回家族会が開催され、前回は市の職員が成年後見制度について話をしている。家族から処分する着物や食器類を活用できないかとの申し出があり、ホームで活用させていただいている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開催し、意見や、提案を聞く機会があり、反映させている	気付きや疑問点はその日に勤務する職員が話し合い、ユニット毎のノートや申し送りノートに記載し、毎朝の朝礼で共有されている。ホームでカラオケセットを所有できれば、歌う機会が多くなるなどが提案されている。	ユニット間で情報を共有し、協力や連携を促進するために、ユニット合同のミーティングの開催を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会の参加や、資格習得へのアプローチや、フォローを行い、各自が向上心を持てるよう環境、条件の整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては性別や、年齢などを理由に採用対象から排除しない。その能力を発揮し、生き生きと勤務し、社会参加や、自己実現が出来るよう配慮している	ハローワークや求人誌、紹介等で募集、採用されている。現在20歳代から60歳代の職員が勤務し、研修や資格取得の奨励を受け、有資格者が多い。資格手当やシフトの調整に加え、講習受講料の補助も今年度から実施され、時間内に会議を行うことで職員の負担を減らしている。職員は資格や趣味などを業務で精一杯発揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇委員会を中心に、苑内研修を受ける機会も多く、啓発運動も取り組んでいる	研修計画に基づいて毎年人権啓発活動に取り組み、法人全体での研修が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかでの交流や、研修参加などを通じてサービスの質の向上をさせている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で本人が困っている事、不安な事、要望などに耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時や、契約説明時などに、家族が困っている事、不安、要望など耳を傾けながら、関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事し、一緒に暮らす家族のような存在であり、お互いに癒されたり、励まされる関係		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は情報を共有し、本人様を共に支えて行く関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を利用し、馴染みの場所を外出行事に取り入れたり、併設施設のデイケアのカラオケや、民謡クラブでは、馴染みの人や、旦那様が来たり、交流の場となっている	地元からの入居者が多く、釘めき地蔵参りや大門松の見物に出かけたり、近くのホールで開催されているなじみの展示会や催し物では、出展作品の見物に出かけている。近所の方から差し入れられた梅や白菜、たかな、芋のつるは、なじみの漬物や副食となって食卓に並んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で対話されたり、食事の配膳など、出来ない人のを配膳してくれたり、洗濯物なども、他者のもたたんでくれたりと、お互いが支え合うような関係作りをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、退所された方も面会に行ったり、家族、本人様との関係は続けながら、今後の相談や支援をしている。又、気軽に立ち寄って頂ける様な環境作りをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や契約時に本人様の希望や、家族の希望を、ケアプランの入れ、支援している。困難な場合はアセスメントの中や、日頃の傾聴などから導き出している	担当制で、日頃から担当職員は他の職員の気づきや情報を集約して入居者の思いや意向の把握に努めている。今年は誕生月の入居者と担当職員が二人で近くにできたレストランで、コーヒーとケーキのひと時を楽しんでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時など、センター方式を利用し、家族の方や本人からお聞きしたり、日頃の傾聴の中で、これまでの生活の把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ヶ月評価など参考にし、出来る、出来ないなどの把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月評価を参考にカンファを行い、職員の意見やアイデアなども取り入れ、家族や、関係者などの意見も参考に、現状に即したプランを作成している	介護記録の表紙に短期目標を明記し、青書きでケア内容を記録している。全職員の情報と1ヶ月評価を元にモニタリングを行い、現状に即した計画が作成され、適切なトイレ誘導で失禁が減少したり、皮膚湿疹が治ったり、好きな縫い物に熱中することで、排便回数が減り落ち着いて生活ができている。	達成できた短期目標を維持し高められるスモールステップの目標を作成し、入居者とともに喜び合える日々を期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時稀列に記録し、朝礼時に申し贈りし、連絡帳なども利用し、情報共有を図っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に傾聴し、栄養管理や、マッサージなどの個別ケアも受け入れている。訪問看護、病院受診、併設施設のOT,PT,からの助言も頂く		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、病院、ボランティア、地域の展示会への展示や、見学、地域の小学校、中学、高校、会社などの受け入れや、本人様が楽しめるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関連施設でもある病院の訪問診療を受けている。又、緊急時に対応して頂ける様、連携している。	家族が同行してかかりつけ医を受診される入居者もあり、月1回の訪問診療と訪問看護の連携で、訪問歯科などの利用もしながら適切な医療が受けられるよう支援している。入居中の急変に即対応し、脳疾患で入院、リハビリ後再入居された入居者もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の対応や、臨時の病院受診などの相談やアドバイスを受たり、経過報告を行ったりして支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し、継続したケアが受けられるよう情報交換や、SWさんや訪問看護師さんなど、関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に応じて家族やDrと話し合ったり、面接を設けて現状をお伝えし、事業所の出来る事を説明し、方針を共有し、地域医療とも連携し支援している。	希望に沿ってホームでできるぎりぎりまでお世話させていただくとの体制である。昨年亡くなられた入居者は体力がなくなり、それでも家に帰りたいと希望され家族がつれて帰り家で過ごしている。その翌月急変して亡くなられたが、家族は帰宅できたことを喜び、葬儀の席でホームに謝辞を述べられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修での緊急時の対応や、マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。又、消防署との連携し、緊急時の対応の訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員を中心に、消防署と連携した防災訓練や、苑と合同の訓練を行っている。	緊急連絡網の点検などの自主的訓練も含めて今年度は8回の訓練が計画され、実施している。隣接施設と合同で救急蘇生法やAEDについて学んでいる。ホーム独自で飲料水や食糧を備蓄し、毎年4月に点検している。今後、連絡網にスマホのアプリの活用を検討している。	運営推進会議を活用し、近隣の住民に参加を呼び掛け、災害時には指定避難所の他にも法人の施設等の活用で地域防災の拠点となられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝、朝礼でグループホームの理念の唱和や、コンプライアンスの唱和などを行い、意識付けを行っている。又、接遇委員を中心に声かけなど行っている。	入居者の意向に合わせた呼び名や話し方で対応し、調査員の説明もしっかりされていた。居室の見学も入所者の意向を尋ねるなど、丁寧な対応がなされている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者が自己決定出来るような環境づくりを行っている。手伝い、入浴、軽作業など本人様の希望も踏まえプランに入れている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やその方のペースに合わせた入浴や、食事の時間、レクリエーションなどもその方の意思の確認を行い、希望に沿って生活している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服や、外出時の洋服など、その人らしい服装を利用者様と一緒に選んだり、家族の方が持って来てくれたり、夏には、浴衣や誕生会や敬老会などでも着物など着れるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員を中心に嗜好調査など行い、メニューや行事の中に取り入れたりしている。利用者も職員と一緒に盛り付けをしたり、準備、片付け、配膳など行っている。	朝食はホームで調理しているが、昼、夕食は隣接施設の厨房から管理栄養士の献立で届けられている。ご飯は毎回ホームで炊いて漬物や煮物など1品はホームの手作りを準備している。調査日はホームの畑で獲れたホクホクのサツマイモを、其々のペースでゆっくりと食されていた。外食で各自が好きなものを選んで食べたり、お正月には職員が初釜で、お抹茶を全員に振舞っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良いメニューで、水分は記録し、1日に必要な量を摂れるよう支援し、少量の方はゼリーなどにし、こまめに摂取して頂く。食事の形態もミキサー、刻み、トロミなど必要な方は支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、声かけ、見守り、介助の必要な方など本人に合わせて支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、昼夜声かけ、誘導を行い、トイレで排泄し、失敗を防ぎ、自立出来るよう支援している。	トイレ誘導で失禁が減少したり、パッドの使用量が減って皮膚湿疹が治った入居者がいる。入居時頻尿だった入居者は縫い物が好きと聞いて道具を揃えている。熱中すると昼間の排尿回数も減らすことができ、3ヵ月後、落ち着いた生活ができています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事、運動などの声かけ等を行う。個人によっては、Dr. 看護師と相談し、便秘薬などで調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方に合わせた入浴を行っている。又、便失禁や外作業、体調不良など汗をかいた時、その時必要なシャワー、清拭、足浴、ドライシャンプーなど行う。	週3回を目途に毎日、朝から入浴できるが、入居者の希望や状態に合わせて、午後でもゆったり入浴支援をしている。浴槽に浸かって、入居者の好きな歌を一緒に歌って寛いでもらったり、季節の柚子湯などを楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠れない時は、職員とコミュニケーションをとったり、昼間の散歩や日光浴を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。薬の変更時は、朝礼で報告、伝達し、薬情報はいつでも確認できる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に役割を持ち、張りや喜びのある生活が出来るよう支援し、手工芸や貼り絵、風船パレー、カラオケ、おやつ作りなどを行い、作品は、地域の展示会などに出品し、見学したり、誕生日にケーキを食べに行き、気分転換を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強く、外に出られた時は、気持ちが悪くなるまで寄り添って、散歩を行う。本人の希望があれば、外出行事に取り入れたい、家族の協力を得ながら支援している。	現在は全員での外出が可能のため、隣接施設から大型の車両を借りて、初詣や花見、外食など計画して出かけている。近くのコミュニティホールでの催しなど希望にそって出かけた、家族も誘ってショッピングセンターでのひと時を過ごすなどしている。施設職員が一緒のため安心と、家族にも好評である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事などで、買物をした時などは、個人でお金を持って頂き、支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる様に支援したり、年賀状や暑中お見舞いなど書いて頂いている。又、遠方で手紙の書けない人などは、近況や本人様の書きたいことを職員が代筆し、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間などの温度調整や夏には、天窓の直射日光を緩やかにする為、天上の空間にカーテンを行う。玄関、リビング、洗面所などに、季節の花を生けたり、廊下、リビングには季節に合った貼り絵などを飾っている。	玄関を入るとテーブルや椅子が並んだ食堂、厨房など共用空間が広がり、それぞれのユニットの居室への廊下が続いている。廊下いっぱい飾り付けていた花や展示物は押しピンが危ないからと整理され、外出の時のスナック写真や入居者達の書初めが飾られていた。壁際に所々置かれたソファで寛ぐ入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で、ゆっくり会話できるように、席を配慮したり、ソファなどでも会話出来るように配慮している。又、一人でゆっくり新聞など読まれる方などや、レクに参加される方などの席の配慮なども行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣や能力に合わせて、安心、安全に過ごせる様にしている。畳を敷く、手すりをつける、編み物が出来るように椅子を置くなど。又、家で使用していたダンスや、仏壇、お不動様など居室に置いている。	居室は入居者の身体状況や好みに合わせて、畳の敷き方を変えたり、ベッドの高さを調整している。自宅から持ち込んだ毛布や筆筒、テレビを置いたり、季節の花を飾って、その人らしい部屋作りを工夫している。居室の暖房には乾燥防止が配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな日めくりカレンダーを置いて、めくって頂いたり、トイレ等を大きく表示したり、テーブル席なども名前を付けたり、食事のお盆なども名前をつけたり、必要な支援を行い、安全に出来るよう支援している。		